

道 徳

自分の生き方や在り方を見つめ、他と豊かにかかわれる子供の育成

～子供が自ら道徳的価値を感じ取り、深め合うことができる道徳の時間の構想～

1 研究の経緯

本校の道徳部会では過去3年間の研究において、子供の『ゆめ』を道徳性の育成という面から支援し、『ゆめ』を持った子供の生き方に、より具体的に迫ることによって、子供が自らの生き方を問い続けることができるよう、「自らの生き方を問い続ける子供の育成」というテーマで研究を進めてきた。第1年次には、「子供が学びの実感を持つことができる道徳の時間の構想」をサブテーマに、道徳の時間を子供一人一人が学びの実感が持てる時間にできるよう、道徳の時間の位置付けを工夫したり、「テーマ学習」「生き方を考える学習」などのプログラムを開発したりした。第2年次には、「自分とのかかわりから道徳的価値をとらえることができる道徳の時間の計画と実践」をサブテーマに、自分とのかかわりから道徳的価値をとらえやすくするために『自分図鑑』を多様に活用させたり、友達と道徳的価値の交流を図る学習過程を工夫したりしてきた。第3年次には、将来に希望をもって、成長する喜びを感じ取りながら、自分らしく生きていくことができるよう「自分らしい生き方を求め、未来を拓こうとする道徳の時間の追究」というサブテーマで研究を進め、道徳的感性を生かした道徳的価値の内面化や体験と結び付けた授業の展開の工夫について研究してきた。これらの研究を通して、子供たちは道徳の時間の意義を知り、その中で道徳的価値を自分とのかかわりからとらえ、少しずつ自分の生き方について考えることができるようになってきた。

2 研究の方向

本校の研究主題「未来に向かって、自分らしい生き方を考える子供を育てる」にある「自分らしい生き方」には、「自分に自信を持って生きること」と「人間らしい豊かな心を持って生きること」の2つの面があるが、道徳部会としては、次のようにとらえた。「自分に自信を持って生きる」とは、子供が、まず生きることは素晴らしいことだということを実感し、その実感の上に立って自分の内面のよさや課題を見つめたり、望ましい人間としての在り方にも関心を持ったりして、自分らしさを日常の生活の中に生かしていくことである。また、「人間らしい豊かな心を持って生きる」とは、子供が自分の生き方や在り方を自分のまわりの人や自然、社会などの事象や事物とのかかわりから考え見つめ直すことである。そこで、道徳部会の研究主題を「**自分の生き方や在り方を見つめ、他と豊かにかかわれる子供の育成**」とした。

第1年次である本年度は自分の生き方や在り方を見つめるために、道徳的価値を子供の意識に根差して実感して感じ取ることができる道徳の時間を考えた。そうすることによって学んだ道徳的価値を生活に生かそうとする意欲が高まってくることを期待している。また、道徳的価値に基づく行為を実践したと考えていても、そのことがひとりよがりであったり、自分勝手であっては意味がないのであって、自分を取り巻く人や自然、社会などの事象や事物との共生を意識した実践であることが必要となってくる。そのためには、自分が感じ取った道徳的価値を友達としっかりと交流し合い、深め合うことが大切となってくると考えた。これらのことから第1年次のサブテーマを「**子供が自ら道徳的価値を感じ取り、深め合うことができる道徳の時間の構想**」とした。

3 研究の内容

「子供が自ら道徳的価値を感じ取り、深め合うことができる道徳の時間」とするために、二つの研究の柱をたてた。一つは、「道徳的価値を子供の意識に根差して実感することができる道徳の時間の工夫」であり、今一つは、「感じ取った道徳的価値を友達と深め合うことができる学習活動や支援の工夫」である。

(1) 道徳的価値を子供の意識に根差して実感することができる道徳の時間の工夫

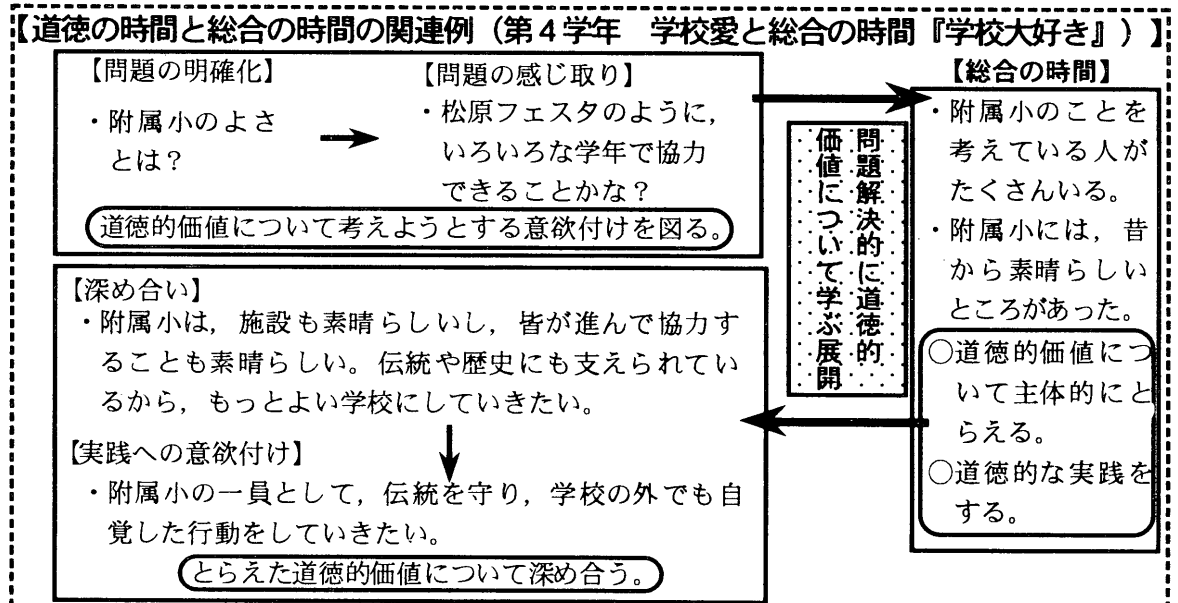
子供が主体的に道徳的価値を自覚できた時には、日常生活における子供の道徳的な実践も多くなっていく。また、一つの道徳的な実践による効力感が次の道徳的な実践の内発的な動機付けとなり子供の道徳的実践意欲は高まっていく。そこで、道徳的価値のよさを子供の意識に根差して実感できるように、子供が主題や資料に自分とのかかわりを見出し、そこから主体的に道徳的価値の意味を学び取るような道徳の時間が必要となってくる。

ア 他の教育活動に関連したり生活に密着したりして問題解決的に道徳的価値について学んでいく展開の授業（総合的な学習の時間との関連を中心に）

道徳の時間の中に道徳的価値にかかわる事象について生活に密着して問題解決的に学んでいく学習を取り入れることで、子供が日常の問題にぶつかった時、自ら主体的に解決しようとしていたり、その解決方法も学んだりすることができる。さらに、解決したことを日常の生活で生かしたり、その方法を日常生活で試したりする意欲も高まるようになる。

また、道徳の時間を一単位時間のみとして考えるのではなく、他教科等との関連を図りながら行う方がより効果的に子供の道徳性を育てることにつながる。本年度は特に総合的な学習の時間（以下、総合の時間と表記）と総合単元的にかかわる道徳の時間を研究していきたい。なぜなら、道徳の時間も総合の時間も自分の生き方を考える時間であり、総合の時間を道徳の時間の視点から有機的に関連させていくことは、総合の時間においても主体的に道徳的価値をとらえることとなり、道徳的な実践の場も保障される機会が増えると考えられるからである。

なお、総合の時間と道徳の時間とのかかわり方については、総合の時間のねらいと直接関連する道徳の時間、総合の時間での一場面における道徳的問題について話し合う道徳の時間などが考えられる。いずれにしても子供の意識に根差して展開できるようにしていかなければならない。

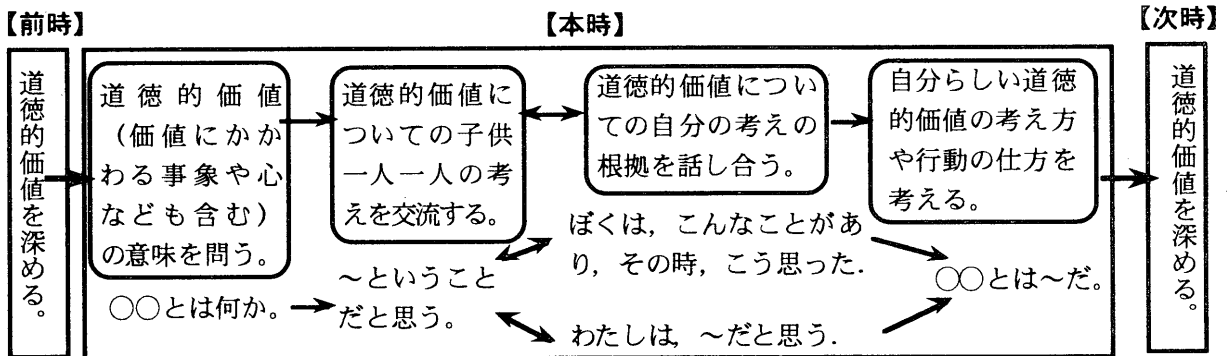


こうして、日常生活の問題を取り上げたり他教科等との関連を図ったりしながら道徳の時間の学習を進める場合、学級で共通の道徳的な問題がある場合は、その問題について話し合うことは可能である。しかし、その問題が一人一人違っている場合も少なくない。そこで、一人の問題はみんなの問題という意識付けを図ることが必要であり、その上に立って問題解決的な学習を展開することになる。

この場合の教材としては、総合の時間に活用した資料や作品、日常生活の中で記入した『自分図鑑』から場面や登場人物を設定して身近に考えることができる読み物資料などがあげられる。（『自分図鑑』の詳細については、平成10年度紀要参照）

イ 道徳的価値（価値にかかわる事象や心なども含む）の意味を問うことから展開していく授業

道徳的価値についての自分の考えの基になったものを一人一人の日常生活から引き出すことができるような展開を道徳の時間のテーマ学習の中に取り入れるようにする。テーマ学習は、一つの道徳的価値に様々な角度から光をあて、じっくりと複数時間かけて内面化する学習であり、道徳的価値についての見方や考え方を広げていく時間としてこの授業を位置付けたい。例えば、この授業の前時と次時に道徳的価値を深めるような時間を位置付け、この授業では、子供が日常生活を振り返って道徳的価値と自分の生活を関連付けて考えたり、友達の道徳的価値の見方や考え方をすることで、自分の道徳的価値に対する見方や考え方を見直したりすることができるようにする。これらのことを通して、子供が日常生活との関連から道徳的価値についての見方や考え方が深まったり広まったりし、道徳的な実践ができるようになる。



テーマ学習

さて、その手立てとして、日常生活において子供にとって切実感のあるテーマを設定することや道徳的価値について考えやすいようなワークシートを活用することが考えられる。例えば「本当の友達とは何か」「学校を大切にすること」などのテーマを設定したり、右図のようなワークシートを活用したりすることである。

ウ 道徳的感性をゆさぶったり、生命や痛みを実感させたりする展開の授業【生き方を学ぶ学習の中で】

子供は強い感動を覚えた時には行動にも変化が表れる。道徳の時間において子供が強い感動を受けると実践意欲も自ずと高まってくる。そこで特に人間の生き方を前面に出した子供の心に響くような教材を活用した授業をつくっていくことで、道徳的感性をゆさぶったり、生命の大切さや人の心の痛みを実感させたりする。このような授業をつくっていく手立てとして資料の工夫がある。この授業では、地域の人材を活用することで効果があがると考えられる。具体的には、家族愛や生命尊重の授業で、親としての思いを肉声で語ってもらったり、郷土愛の授業で地域の人に、貴重な体験談を話してもらったりすることが考えられる。地域の人材の活用によって子供は強い感動を覚え、道徳的価値を感じ取ることができるだろう。

(2) 感じ取った道徳的価値を友達と深め合うことができる学習活動や支援の工夫

道徳的価値を子供の意識に根差して実感する過程において、道徳的価値を感じ取ったら、そのことを表現したり友達の感じ方を知ったりするといった道徳的価値を深め合う学習活動が必要となる。それは感じ取った道徳的価値を友達に話すことで、道徳的価値を再認識することができるからである。また、友達の感じ方を知ることによって自分の道徳的価値に対する見方を広げたり深めたりすることができるからである。そのために、主に子供同士のコミュニケーションについて焦点を当てて研究を進めていきたい。

ア 一人一人の子供のよさを意図的にかかわり合わせる学習活動や支援の工夫

コミュニケーションによって道徳的価値を深めたり広めたりするために、学校生活の日常場面における子供のよさを多面的に見取り、一人一人のもつよさを発揮しながら他と調和できるような話し合いを計画的に設定することが必要である。

まず、グループ学習において、認め合い励まし合うことで道徳的価値についての考えが深まることをねらう展開では、道徳的価値について同じような感じ方の子供たちでグループを作る。例えば、生命尊重の内容で、「いのちの力に感動したこと」などを話し合う時には、同じような感じ方のグループで話し合いを進めたほうが道徳的価値は深まりやすい。反対に、道徳的価値についての様々な見方、考え方を引き出し、意見を意図的に対立させることによって話し合いが深まる展開としたい時には、道徳的価値について異なる考え方を持っている子供たちでグループを作る。例えば、親切や勇気といった道徳的価値の意味を明確にしていく学習の時には、子供一人一人の意見の対立などによって、道徳的価値は深まっていく。

一斉学習の中では、一人の子供のよさを見取ってクラス全体に広めたり、友達のよさを表現したりすることができる学習活動を設定するようにする。

イ 対人的なかかわりを重視した学習活動や支援の工夫

ここではコミュニケーションの内容よりもコミュニケーションそのものの効果を期待して設定した。人間は他の人に話を聞いてもらうと心がすっきりすることがある。問題は解決していないが、話すことを通して自分の考えが伝わったことにより、安心感や受容感を感じるからである。そして、その中で友達のよさを見付けたり、道徳的価値についての見方、考え方を広げたりすることができれば、道徳の時間の活動が日常の生活に生かされていくだろう。つまり、道徳の時間にコミュニケーションの方法や人とのかかわり方を学ぶようにすることで、日常の生活においての自分の生き方に生かせるようにしていくことができるのである。具体的には、右のような「話し合いの手引き」などを活用した話し合い活動を取り入れていくことで、コミュニケーションを深めていきたい。

4 研究の成果と今後の課題

道徳的価値を子供の意識に根差して実感できるような道徳の時間を工夫することで、道徳的価値を意識しながら総合の時間を始めとした他の教育活動に取り組むことができるようになってきた。また、道徳的価値を友達と深め合うことができるような学習活動を工夫することで、道徳的価値や友達のよさについてとらえることができるようになった。今後は、主体的に自分の生き方や在り方を見つめられるような手立てを考えていきたい。

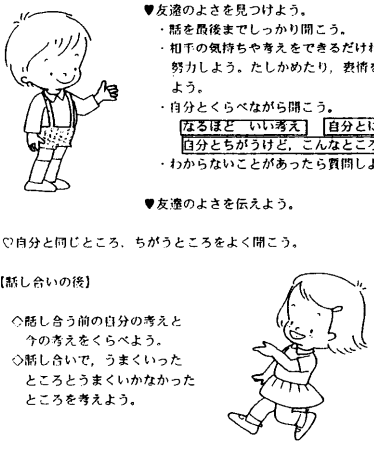
道徳の時間の話し合いの手引き

【話し合いの前】
◇自分の考えをはっきりさせておこう。
♥友達のおもしろい考えを楽しみにしよう。友達のよさを見つけよう。

【話し合い】
◇自分のことばで自分らしく伝えよう。
♥友達のよさを見つけよう。
・話を最後までしっかり聞こう。
・相手の気持ちや考えをできるだけわかるよう努力しよう。たしかめたり、裏付けを見たりしよう。
・自分とくらべながら聞こう。
■なるほど いい考え ■自分とにているよ
■自分とちがうけど、こんなところがいいよ
・わからないことがあったら質問しよう。
♥友達のよさを伝えよう。

◇自分と同じところ、ちがうところをよく聞こう。

【話し合いの後】
◇話し合う前の自分の考えと今の考えをくらべよう。
◇話し合いで、うまくいったところとうまくいかなかったところを考えよう。



話し合いの手引き例